

# 講 評

大島交流拠点施設(仮称)  
設 計 競 技 審 査 委 員 会

本設計競技には、全国から379作品が提出され、多くの方から本競技や大島地区に関心をお寄せいただき、関係者一同、大変嬉しく、有難く感じております。

本競技の対象地は離島にあり、現地現場の様子を感じ取ることが難しかったと推察しますが、どの作品においても、島の人々の暮らしや風土を丁寧に読み取ろうとされている姿勢や思いに敬意を表します。また、様々な視点や工夫を凝らした交流の場をご提案いただき、審査員一同、多様な交流のあり方について考える機会となりました。

今回の交流拠点は、今後の大島の将来を描いていく上で、一つの重要な装置として機能させ、島の人々の誇りとなるよう、ここに集う人達の手によって育てていただきたいと考えております。これを機に、今後とも大島地区や八幡浜市のまちづくりを見守っていただきますと幸甚です。

以下は、2次審査に進まれた作品の講評です。どの作品も着眼点が素晴らしく、共感できる点が数多くありました。2次審査の公開プレゼンテーションでは、ご提案いただいた皆様の大島への思いや、新しい交流の場を地元関係者と一緒になって作り上げようとされる姿勢が伝わり、甲乙つけ難い素晴らしい提案が示されました。

## 【登録番号58／最優秀賞】

本作品は、地域の個性を読み解いた意匠計画、シンプルで使いやすい平面計画など総合的に完成度の高いデザイン提案でした。また、山側の日常的な空間の使い方や、運営面への配慮、プロモーションの提案に至るまで、様々なソフト面のアイデアについても示されたことは、本作品が実際に建築された後のイメージを想像する上でポイントになったと思います。

大島の龍神伝説から着想を得たウロコ模様の「龍王やぐら」が印象強く、訪れた人や島の住民にとって、新しいアイコンになることを期待します。

## 【登録番号9／優秀賞】

本作品は、ボートルーフという木造和船を参考にした屋根構造がユニークで、主張しすぎないシンボル性は好感が持てる提案でした。また、自然な交流を促すスペースとして、アットホームな規模による交流空間の提案や、施設利用時間外であっても独立して使用することのできる風除テラスなど、実用性の高い提案が評価されました。2次審査でも指摘

がありましたが、大人数での利用を想定した使い方についても具体的に提案されると、更に実現性も高まり、素晴らしい施設になったと考えます。

#### 【登録番号219／優秀賞】

本作品は、広いオープンデッキを設け、海側に向かってV字型の平面計画となっており、訪れる人々にとって、迎え入れられているかのような温かい印象を与え、意匠面においても、周囲の風景に馴染むシンプルなデザインが審査員の共感を得ました。また、集落側と海側を繋ぐ通路のデザインや、台風時に想定される強風による被害も軽減が期待できる建物形状であることなど、空間構成と機能性の融合が評価されました。規模に合わせた使い方のできる2つの交流スペースの提案は、島の住民に寄り添った提案でしたが、様々な交流パターンを想定する上で、管理上の課題が指摘されました。この課題を踏まえて案を練り直すことができれば、より洗練された使い心地の良い施設になったと考えます。

#### 【登録番号260】

メインとなる交流スペースは、2つの間仕切引戸を設け、様々なシーンに合わせた使い方が提案されました。また、本交流拠点で必須であった駐輪スペースについて、屋内に計画されていた点は、懸念される塩害対策となり、動線計画もコンパクトで、全体的な実現性の高さが評価されました。ただ、オープンデッキの計画については、使い方を含めもう一工夫あれば更に良い提案になったと思います。

#### 【登録番号513】

本作品は、可動式の間仕切りを用いて自由度の高い交流スペースを提案されました。また、鴨居梁や木軸グリッド天井の提案など、間仕切り時の機能性を有した構造部を露出させることで、木構造の美しさが表現されていた点が評価されました。しかしながら、大きく設えられたガラス面についての台風時の対策や、実現性についての懸念が示されました。

#### 【登録番号545】

本作品は、シンボルツリーのある中庭を配置し、中庭を囲むことで生まれる人々のネットワークの形成が提案されており、限られた敷地でしたが、ダイナミックな空間計画がなされた数少ない提案でした。特に、中庭のシンボルツリーは、背後の山との連続性や周囲との景観面の調和だけでなく、木漏れ日や風による木の揺らぎが人々に安らぎを与え、心地よい空間が想像できる魅力的な提案でした。しかしながら、本作品の魅力となる中庭とシンボルツリーについて、台風時の懸念が示され、最優秀賞および次点には及ばないと評価しました。

#### 【登録番号621】

本作品は、銅板による大屋根が特徴で、背後の山や前面に広がる海に調和した外観デザインや、現在の島の人々の暮らしを読み取った温かく、フレキシブルな平面計画が評価されました。しかしながら、素材の耐久性など、実現性についての懸念が示されました。2次審査で指摘された懸念事項については、提案された屋根素材を扱う会社に確認をしておくこと、より説得力が増したように思います。